



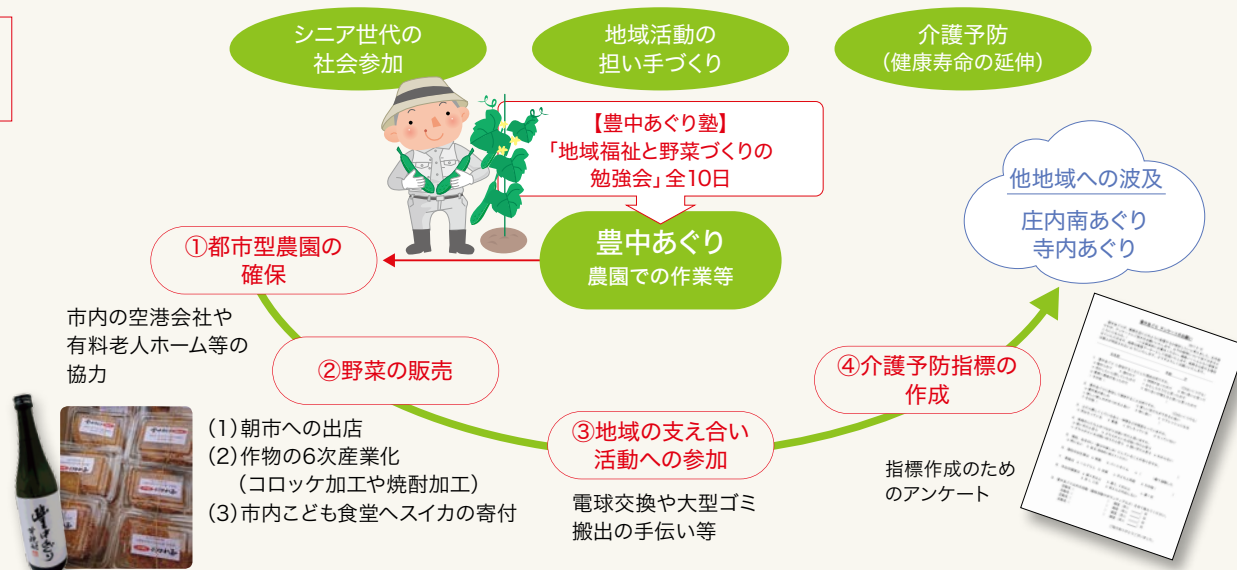
都市型農園を通じた高齢者の 社会参加実践の構築と評価指標の作成について



活動目的

都市型農園を通じてシニア世代の社会参加と地域活動の担い手づくりを行うとともに、その効果を検証することで、高齢化社会の健康長寿の延長と地域課題に対応する担い手づくりのモデルを構築する。都市部における、定年後の社会参加の新しい方法論を模索する。

活動概要図



活動成果 (1年目)

3つの農園を確保し、男性高齢者の活動の場と参加者を増やすことができた（約70名）。また、野菜の直売や加工をするといった場面でも、シニアの社会参加の場をつくることができた。活動の情報を発信するなかでは、各小学校区単位の取り組みが始まり、男性の社会参加と生きがいづくりの場を増やすことにもつながった。介護予防指標の作成では、参加者が健康評価指標として「①仲間が増えた②健康になった③社会参加の場が増えた」と具体的な成果が現れていることが明らかになった。



今後の とりくみ (2年目)

男性の社会参加の場をどのようにつくっていくかを「生産性と役割」というキーワードで考えながら、継続して活動を進めていく。特にシニアの体力と役割のバランスを勘案したうえで新たな挑戦をしたい。また、「ここまで届いていない人たち、さらには定年前からのソフトな地域移行をどのようにしていくか」や、「中山間地の人材不足への応援として援農を行う」等の新たなモデルも検討する予定。



comment

活動者の声

あぐり会員
生野 誠一 さん

数年前に大病を患い、体重と体力が落ちてしまいました。回復のため一人で家庭菜園を楽しんでいましたが、どうしてもうつ状態になりがちでした。どこか参加できるところを探していたら、「あぐり塾開講」の記事を見つけ、さっそく申し込みました。実際に参加してみると、講義と実習は実に楽しく、社会人生活を卒業した男性が気心を1つにして楽しむことは、すばらしいことと実感しました。来年の目標は、お正月の餅つきで、一人で一臼をつき上げることです。

メディア掲載

・NHK「“生きがい”と“役割”が循環する持続可能な社会」(2017年11月18日放送)
https://www.nhk.or.jp/chiiki/movie/?das_id=D0015010691_00000
 他新聞、テレビ等での紹介多数